

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校
平成 30 年度 第 1 回学校関係者評価委員会

| | |
|-----|---|
| 日 時 | 平成 30 年 4 月 20 日 16:30～17:30 |
| 会 場 | 横浜リハビリテーション専門学校 非常勤講師室 |
| 出席者 | 東戸塚品濃町内会関係者、介護老人保健施設アゼリア関係者様、西横浜国際病院関係者、副校長、理学療法学科長、作業療法学科長、ほか教職員 6 名 |
| 内 容 | 司会：水島 書記：島田 |

I. 副校長挨拶

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございました。平成 30 年度の第 1 回学校関係者委員会開催に際しまして、学生ひとりひとりが学んでよかったと思える学校にするために、学校評価委員の方々の貴重な意見を反映させ、学生教育に取り組んでまいりたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

II. 学校関係者評価委員会委員委嘱および委員・本校職員 自己紹介

III. 報告事項：平成 29 年度学校評価および平成 30 年度学校目標について

(資料：平成 29 年度自己評価表を基に報告と説明)

各担当より平成 29 年度の達成状況と平成 30 年度に取り組むべき課題について報告と説明を行った。

1. 教育目標・理念（林副校長）

- ・アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー（資料 13）については、本校の教育目標・理念等を明確化し、本校のホームページ上に公開にしている。また、本校のパンフレット等にも明記されている。
- ・平成 30 年度は、PT・OT 養成施設指定規則の改定が予想されているため改定に向けた準備を進めている。

2. 学校運営（林副校長）

- ・学校運営については、それぞれの会議体は、滞ることなく平成 29 年度は運営できている。また、平成 30 年度の事業計画を立て、各々の達成目標を数値化し、評価しながら取り組みを行っている。
- ・平成 29 年度より学園共通の学生データベースをスタートし、現在移行中である。

3. 教育活動

【シラバス・カリキュラム（中村）】

- ・平成 29 年度にシラバスのフォーマットを変更したことを踏まえ、平成 30 年度は、専門職大学化の状況も見据えてネットワーク上での公開を検討する。
- ・指定規則改定において、訪問、通所リハの実習が必要となるため、準備を進める予定である。

【教育力向上（田中）】

- ・平成 29 年度にシラバスフォーマット変更や授業アンケート等は滞ることなく進めることができた。
- ・平成 30 年度に教職員がお互いの授業参観する企画をしており、その前段階で、過去の授業アンケート結果を分析し、勉強会を開催した。

【臨床実習（内山）】

- ・臨床実習関連業務は、平成 29 年度も滞りなく業務を遂行できた。

【情報公開（水島）】

- ・受験希望者、保護者には、授業を公開している。また、カリキュラム一覧表・授業風景・国家試験合格率、就職率は、本校ホームページ、パンフレットにて情報を公開している。
- ・授業アンケートの結果公開は行っていないが、公開方法や結果に対する対応を今後検討する。

4. 教育成果

【資格・卒業研究（田中）】

- ・障がい者スポーツ指導員初級の認定校であり、資格取得の手続きは滞ることなく進められている。
- ・卒業研究については、昨年度は教員からの助言を多く必要としたが、期日までには、提出することができた。平成 30 年度は具体的かつ詳細な指導要綱の作成を検討している。

【国家試験・卒業試験（島田）】

- ・平成 29 年度卒業試験は、2 回から 3 回へ変更した最初の年度であり、実力試験は、例年同様 13 回（オリジナル実力テストおよび業者による模擬試験）企画したが滞ることなく進められた。
- ・平成 30 年度は国家試験対策における学生の担当教員は、学生とのマッチングを勘案した上で割り振りを行った。

【臨床実習（中村・水島）】

- ・PT 学科：退学者や休学者を抜いた 1～4 年生までの学生で、再実習を行った学生は数名いたが、全ての学生は単位習得となっている。4 年次臨床実習では、平成 29 年度も『症例のまとめ』（横浜市立脳卒中・神経脊椎センターリハビリテーション部ご協力）を引き続き利用し、平成 30 年度も継続使用するため、3 年次のセミナーに導入した。
- ・OT 学科：MTDLP（生活行為向上マネジメント）推進協力 A 校として申請をしており、その基準を満たすため養成校に講演を行った。平成 30 年度も引き続き実習施設に MTDLP の活用を促す方針である。

【留年・退学者防止（中村 水島）】

- ・理学療法学科：留年者は比較的例年通りであったが、退学者が 9 名と多い結果となった。理由としては、成績の要因もあるが、精神的な要因に伴う体調不良や進路変更などがみられた。
- ・作業療法学科：学習強化組の効果は、見られている。放課後教室は継続して行う予定である。

5. 学生支援

【社会性（田中）】

- ・例年、新入生に社会性や公共性に欠ける言動の学生が散見されたため指導を行っている。しかし、平成 29 年度の一年次の障がい者スポーツ大会サポート実習や解剖学実習時に不適切な言動や行動がみられた。そのため自己評価では 2 を付けた。

【行事（机）】

- ・学園祭では、学生が主体的・主導的に活動できるように支援してきたが、準備や片付けなどで不備がみられた。地域作業所の出店については、両日開催できるように協力施設に依頼を行った。平成 29 年度学園祭 2 日目（日）は、天候が大荒れとなり、開催時間等を急遽調整したが、大きなトラブルもなく終えることができた。
- ・平成 30 年度は、合同卒業式等の準備があり、3 月は他の学校行事が多くあるため効率よく進められるように行っていきたい。

【個別指導（中村）】

- ・定期的な個人面談や課題を抱えた学生は学科会議で情報伝達や話し合いを行っている。また、教員で対応困難な事例では、スクールカウンセラーに継いでいる。

【健康管理、防犯、就職支援、災害対策、経済援助（宮野）】

- ・健康診断および防犯指導は、滞ることなく実施した。
- ・就職活動については、年内 60%・年度内 100%と目標値を掲げており、平成 29 年度は双方の目標を達成した。
- ・災害対策は、マニュアル等を整備し、経済援助では各奨学金の対応を行っている。

6. 教育環境

【教室（宮野）】

- ・校内の蛍光灯を順次 LED に切り替えている。また、教室のブラインドが破損している箇所があるため修繕予定である。

【図書・設備・備品（杉山）】

- ・図書の活用を推進するために、新規購入蔵書について周知を行い、アンケートを施行の上、蔵書を購入した。
- ・設備・備品については、物品の点検および整理を行い不足品、欠品は、修理補充を行った。

7. 学生募集

【学生募集（宮野）】

- ・平成 30 年度生は、理学療法学科では定員超過、作業療法学科は定員不足となり、作業療法学科は追加募集を行った。
- ・平成 31 年度生の募集では、引き続き定員超過や不足にならないよう実施していく。

8. 社会貢献・地域貢献（宮野）

- ・高校生向けの「仕事の学び場」や小中学生向けにチャレンジスクール実施した。また、高校等からの依頼による出張授業も行った。敬老会や職能団体の研修などに当校の施設を提供した。
- ・地域貢献として、作業療法学科の学生による「つなぐカフェ」や保育校と連携しオープンカレッジ等を行なった。

9. 法令等の遵守

【法令遵守（林副校長）】

- ・定員については、理学療法学科は超過、作業療法学科は不足という状況となった。直前で辞退が出

るなど、定員数と同数にするのは常に困難ではあるが適正化を図りたい。

- ・第三者評価は、2022年3月31日までWFOTならびにリハビリテーション教育評価機構による認定が有効となっており、それまでには指定規則の変更に伴う情報収集に努め、2022年に再受審予定でいる。

IV. 質問・意見

大場様：就職率目標を年内60%、年度内100%と毎年しているが、いつも達成されてなかったと記憶しているが・・・？

宮野：今まで達成されていなかったが、今年度（平成29年度）初めて達成された。

大場様：年内60%は、かなり難しいと思うが、達成したのはすごい。また、達成した要因は何かあるのか？

田中副学科長（平成29年度担任）：例年と比べて、担任として特段に学生に何かしたということはないが、就職指導の事務局の積極的な協力があり、学生は就活がしやすかったのではないかなと思う。また早々に決まった学生の情報が回ったというのもいい刺激になったのではないかなと考えている。

大場様：学生の個別指導において、精神的な面については、必要に応じてスクールカウンセラーに継げているとあるが、精神面で弱い学生が増えてきているのか？また、スクールカウンセラーの利用状況はどのような感じか？

中村学科長：増えているといえば増えている印象はある。病的なレベルなのか弱さなのか難しいところであるが、スクールカウンセラーにつなげて楽になるのであればそれも一つの方法であると考えている。

水島学科長：当校では、スクールカウンセラーを設置していることを明示しており、またカウンセラーとはメールでもアポイントできる等、学生が気楽に相談できる状況にはある。

本橋様：毎年、町内会の敬老の日に行う催しや月一回の町内会の会合等で、貴校の学生さんには、お手伝いしてもらっている。学生さんは、周りへの気配りもでき、非常に評判がいい。また、挨拶等もしっかりできている。そこで、少し気になるのだが、学校自己評価で社会性に関する評価が2であり、そんなに悪いのかと思ってしまう。事件になってしまうようなことはあるのか？

林副校長：事件になってしまうようなことはない。高校を卒業したばかりで、幼さの抜けない状況で、担任としての思いが評価に出ている。

本橋様：国家試験の合格率と就職率について、比率が異なるが、不合格になった学生も何らかの形で就職が決まったのか？

水島学科長：不合格になった学生は、助手等で働く卒業生もいるが、就職率は、国家試験に合格した学生の就職率を表している。

木村様：社会性の学校自己評価が2と低いのは気になる。臨床実習に来る貴校の学生や貴校から当院に就職した卒業生もいるが、社会性が身につけている学生が多く、ちゃんとしている。

学校自己評価を2としているのは、ある一部の学生を見て厳しめに評価したと理解するが、頑張っている学生も多くいるので、そのよう学生のためにも評価を高くてよいと思う。

その他

本橋様：町内会では、お便りを 700 部ほど出しているが、学校から情報を流してほしいものがあれば協力します。

V. 次回の会議について

次回の会議開催については、開催時期を考慮した結果、平成 30 年 10 月 19 日（金）に開催する方向で調整させていただきたいと思っております。時期を見計らってご案内させて頂くのでよろしくお願いいたします。

以 上

責：島田